

## 専門基礎分野

専門基礎分野は、専門分野の前提であり、また土台でもある。専門基礎分野は、看護実践の基盤として学ぶ内容とするために、臨床の状況に近づいた専門性のある教育内容とした。

### 人体の構造と機能

#### ■構築の考え方

看護学の視点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため「人体の構造と機能」は生体の様々な組織や臓器、器官の形態と機能が、どのように協調しながら個体としての人間を形づくり生活をしているのか学ぶ基礎的な科目とした。人の構成要素である細胞のレベルから人を見ることができるよう「生化学」を科目立てし、体の構造と機能を“生活しているひと”として捉えられるように「人体形態機能学」とし、器官系統別にⅠ～Ⅳに分類し科目立てした。

### 疾病の成り立ちと回復の促進

#### ■構築の考え方

「疾病の成り立ちと回復の促進」は、「人体の構造と機能」を基に、健康が障害され回復する過程における人体の変化を理解できるような科目とした。「微生物学」では微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学ぶ内容とし、「病理学総論」、「病態治療学Ⅰ」、「病態治療学Ⅱ」、「病態治療学Ⅲ」、「病態治療学Ⅳ」においては、各臓器・器官に特有の疾患に対する病因・病態・検査・治療について理解する内容とした。併せて「治療論」を科目立てして、手術療法、放射線療法、リハビリテーション療法、救急法を学ぶ内容とした。「栄養学」では、代謝栄養学、臨床栄養学を理解できるような内容とし疾患の理解と、患者管理について学ぶ内容とした。薬理学は、「薬理学総論・各論（臨床薬理学）」として、薬理の基本的な知識を学んだ後、続けて薬剤管理も含めた内容とした。その後、「臨床推論」を設定し、人体の構造と機能や各機能の病理学の知識を主体的学習により強化し学生同士で知識を共有する内容とした。

### 健康支援と社会保障制度

#### ■構築の考え方

「健康支援と社会保障制度」では、あらゆる健康レベルにある対象が、社会でより良く生活できるための保障やシステム、社会資源を理解し、多職種と連携・協働しながら基礎的な能力を養う内容とし、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割なども含む内容とした。「医療倫理」では、近年の医療技術の発展から遺伝子学の発展と法的・倫理問題や脳死と臓器移植、自己決定権の尊重をどのように考えるのか人権の重要性について十分理解し、人権意識の普及・高揚を図る内容とした。「地域福祉」では、病院における看護師の役割にとどまらず、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお

互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組むため、地域においてどのように看護師の役割を担うべきか考えられるような内容とした。「公衆衛生」では、人口減少、高齢化がますます進む人口動態の中、どのような疾病構造に変化しているのか、環境と人間の相互関係・生活関係から学び、看護職として健康を維持増進するための組織的な保健活動を法規も合わせて学ぶ内容とした。「社会福祉」では、日本の社会保障の歴史的展開について理解するとともに、保健・医療・福祉の関係性について理解を深められるように、福祉サービスの利用や社会福祉分野の専門職とのコンサルテーションなどを学ぶ内容とした。「関係法規」では、看護法として保健師助産師看護師法から看護の役割や位置づけを読み解く内容とした。また、福祉法や労働法など関連法規についても学ぶ内容とした。

| 科目区分                               | 専門基礎分野   | 授業科目  | 人体形態機能学 I<br>(人体の構造・消化器・内分泌) |
|------------------------------------|--|---|------------------------------|
| 講師名                                | 椋田 崇生(25) 中留 真人(4)   | 実務経験の有無                                       | 有                            |
| 単位数(時間)                            | 1単位(30時間)  | 開講年次  | 1年次 第1学期                     |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ                | 今後学ぶ他の科目の理解や将来の実務に必要な基礎知識を学びます。丸暗記に終始するのではなく、正しく理解して活用できる知識を身につけてください。 |   |                              |
| 目的：看護実践に必要な人体の構造と機能を学ぶ。            |  |   |                              |
| 目標：1. 日常生活を営むうえで必要な、人体の構造と機能を理解する。 |  |   |                              |
| 2. 食物を消化吸収し、排泄するしくみを理解できる。         |  |   |                              |
| 回                                  | 授 業 内 容  |   |                              |
| 1                                  | 人体の構造  | 1) 人体の外観の構造<br>2) 人体の部位と器官<br>3) 人体を構成する組織と細胞 |                              |
| 2                                  | 消化器  | 1) 口・口腔・咽頭・食道の構造と機能<br>2) 咀嚼と嚥下               |                              |
| 3                                  |  | 3) 胃・小腸・大腸の構造と機能                              |                              |
| 4                                  |  | 4) 胃液の分泌と消化                                   |                              |
| 5                                  |  | 5) 栄養素の消化と吸収                                  |                              |
| 6                                  |  | 6) 機能的消化(咀嚼・消化管での移送：蠕動、分節、攪拌)                 |                              |
| 7                                  |  | 7) 化学的消化(消化液の消化酵素)<br>8) 排便(便意～排便)            |                              |
| 8                                  |  | 9) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能                             |                              |
| 9                                  |  | 10) 肝臓の機能(代謝・解毒・排泄・貯蔵)                        |                              |
| 10                                 |  | 11) 腹膜・腸間膜・後腹膜器官                              |                              |
| 11                                 |  | 12) 消化分泌(ホルモン)の調節                             |                              |
| 12                                 | 内分泌  | 1) 内分泌器官の構造と機能                                |                              |
| 13                                 |  | 2) 内分泌器官とホルモンの機能(1)                           |                              |
| 14                                 |  | 3) 内分泌器官とホルモンの機能(2)                           |                              |
| 11<br>(45分)                        |  | 4) 代謝の概要と機能                                   |                              |
| 15<br>(45分)                        | 終了試験   |   |                              |
| 授業方法                               | 講義   |   |                              |
| 評価方法                               | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |   |                              |
| テキスト                               | 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学                                   |   |                              |
| 参考図書                               | 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器  |   |                              |
|                                    | 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝<br>医学書院：目で見るからだのメカニズム                 |   |                              |
| 備考                                 | 特記なし   |   |                              |

|   |  |  |                             |
|---|--|--|-----------------------------|
| 科目区分  | 専門基礎分野   | 授業科目                                   | 人体形態機能学Ⅱ<br>(呼吸器・循環器・腎・泌尿器) |
| 講師名   | 小山 友香(20)<br>坂 孝太(9)   | 実務経験の有無                                | 有                           |
| 単位数(時間)   | 1単位(30時間)  | 開講年次                                   | 1年次 第1学期                    |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ   | 今後学ぶ他の科目の理解や将来の実務に必要な基礎知識を学びます。丸暗記に終始<br>するのではなく、正しく理解して活用できる知識を身につけてください。 |  |                             |
| 目的：看護実践に必要な人体の構造と機能を学ぶ<br>目標：1. 生活しているひとの、呼吸器、循環器、腎・泌尿器がどのような構造を持ち機能しているか理解する。<br>2. 疾病によって受ける構造と機能の変化の理解の土台となる正常な構造と機能を理解する。 |  |  |                             |
| 回   | 授 業 内 容  |  |                             |
| 1   | 1. 呼吸の構造   | 1) 咽頭・喉頭・気管・気管支の構造 2) 肺の構造             |                             |
| 2   |  | 3) 縦隔の構造 4) 肺と胸郭・胸腔・胸膜の関係<br>5) 横隔膜    |                             |
| 3   | 2. 呼吸の生理   | 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸システム                   |                             |
| 4   |  | 3) ガス交換<br>5) 呼吸調節 6) 換気運動             |                             |
| 5   | 3. 心臓の構造と機能  | 1) 心臓の構造 2) 刺激伝導系と心臓の電気活動              |                             |
| 6   |  | 3) 心臓のポンプ作用 4) 心臓機能の適応性                |                             |
| 7   | 4. 血管の構造と機能  | 1) 動脈および静脈の構造 2) 体循環と肺循環<br>3) 血液の循環力学 |                             |
| 8   | 5. リンパ系とリンパ管の<br>構造と機能   | 1) リンパ管 2) リンパ節 3) リンパ組織               |                             |
| 9   | 6. 循環の調節   | 1) 自律神経系による調節                          |                             |
| 10  |  | 2) 液性因子による調整                           |                             |
| 11  | 7. 腎臓の構造と機能  | 1) 腎臓の位置・構造                            |                             |
| 12  |  | 2) 腎臓の機能<br>(1) 糸球体と尿細管の機能             |                             |
|   |  | (2) 体液の量と組成の維持<br>(3) 内分泌臓器としての機能      |                             |
| 13  | 8. 尿管の構造と機能  | 1) 尿管の構造                               |                             |
| 14  | 9. 膀胱の構造と機能  | 2) 膀胱の構造 3) 膀胱の機能 4) 尿意                |                             |
| 15(45分)   | 10. 尿道の構造と機能   | 1) 尿道の構造 2) 排尿                         |                             |
| 16(45分)   | 終了試験   |  |                             |
| 授業方法  | 講義   |  |                             |
| 評価方法  | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |  |                             |
| テキスト  | 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学                                       |  |                             |
| 参考図書  | 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器  |  |                             |
|   | 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器  |  |                             |
|   | 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器  |  |                             |
|   | 医学書院：目で見るからだのメカニズム   |  |                             |
| 備考  |  |  |                             |

| 科目区分   | 専門基礎分野   | 授業科目   | 人体形態機能学Ⅲ<br>(血液造血・免疫・生殖器・感覚器) |
|--|--|--|-------------------------------|
| 講師名  | 坂 孝太(6)<br>小山 友香(10) 濱崎 佐和子(6)<br>中留 真人(3) 棕田崇生(4)                     | 実務経験の有無  | 有                             |
| 単位数(時間)  | 1単位(30時間)  | 開講年次   | 1年次 第1学期                      |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ  | 今後学ぶ他の科目の理解や将来の実務に必要な基礎知識を学びます。丸暗記に終始するのではなく、正しく理解して活用できる知識を身につけてください。 |  |                               |
| 目的：看護実践に必要な人体の構造と機能を学ぶ。<br>目標：1. 血液・造血器機能の生体防御反応について理解できる<br>2. 免疫機能の原理と生体防御反応について理解できる<br>3. 子孫を残す仕組みを理解できる<br>4. 感覚機能の仕組みを理解することができる |  |  |                               |
| 回  | 授 業 内 容  |  |                               |
| 1  | 血液・造血  | 1. 血液の成分と機能 1) 血球の性状と機能                                    |                               |
| 2  |  | 2) 止血機構と線溶 3) 免疫応答   |                               |
| 3  |  | 2. 造血のしくみ 1) 造血の3要素 2) 血液細胞の分化                             |                               |
| 4  | 免疫   | 1. 非特異的防御機構  |                               |
| 5  |  | 2. 特異的防御機構   |                               |
| 6  |  | 3. 生体防御の関連臓器   |                               |
| 7  | 生殖器  | 1. 男性生殖器の構造  |                               |
| 8  |  | 2. 女性生殖器の構造  |                               |
| 9  |  | 3. 女性生殖器の機能  |                               |
| 10   | 感覚：皮膚  | 1. 皮膚の構造と機能  |                               |
| 11   |  | 2. 体温とその調整   |                               |
| 12   | 感覚：眼   | 1. 眼の構造と機能 1) 眼球 2) 視神経・視路 3) 眼球付属器                        |                               |
| 13   | 感覚：耳鼻  | 1. 耳の構造と機能   |                               |
| 14   |  | 2. 鼻の構造と機能   |                               |
| 15<br>(45分)  | 感覚：歯・口腔  | 1. 歯・口腔の構造と機能<br>1) 口腔 2) 口腔周囲 3) 顎骨・顎関節 4) 口腔顎顔面の筋 5) 唾液腺 |                               |
| 16<br>(45分)  | 終了試験   |  |                               |
| 授業方法   | 講義   |  |                               |
| 評価方法   | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |  |                               |
| テキスト   | 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学                                   |  |                               |
| 参考図書   | 医学書院：各成人看護学のテキスト<br>医学書院：目で見るとからだのメカニズム                                |  |                               |
| 備考   | 特記なし   |  |                               |

|  |   |                     |                       |
|--|---|---------------------|-----------------------|
| 科目区分   | 専門基礎分野  | 授業科目                | 人体形態機能学Ⅳ<br>(脳神経・運動器) |
| 講師名  | 中留 真人   | 実務経験の有無             | 有                     |
| 単位数(時間)                                      | 1単位(30時間)   | 開講年次                | 1年次 第1学期              |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ                          | 今後学ぶ他の科目の理解や将来の実務に必要な基礎知識を学びます。丸暗記に終始するのではなく、正しく理解して活用できる知識を身につけてください。そのため、予習・復習をしっかり行い、知識の習得に努めましょう。     |                     |                       |
| 目的：看護実践に必要な人体の構造と機能を学ぶ。                      |   |                     |                       |
| 目標： 1. 生命維持および人体の機能をつかさどる脳の機能と神経の機能について理解する。 |   |                     |                       |
| 2. からだを支える骨格の構造とその機能を理解する。                   |   |                     |                       |
| 3. からだを動かす仕組みがわかる。                           |   |                     |                       |
| 回  | 授 業 内 容   |                     |                       |
| 1  | 1. 脳神経  | 1) 神経系の構造と機能        |                       |
| 2  |   | 2) 脊髄の構造と機能         |                       |
| 3  |   | 3) 脳の構造と機能          |                       |
| 4  |   | 4) 脊髄神経の構造と機能       |                       |
| 5  |   | 5) 脳神経の構造と機能        |                       |
| 6  |   | 6) 脳波と睡眠            |                       |
| 7  | 2. 運動器  | 7) 記憶               |                       |
| 8  |   | 8) 本能行動と情動行動        |                       |
| 9  |   | 9) 内臓調節機能           |                       |
| 10   |   | 10) 運動機能と下行ニューロン    |                       |
| 11   |   | 1) 人体の骨格            |                       |
| 12   |   | 2) 骨の組織と構造          |                       |
| 13   |   | 3) 骨の成長             |                       |
| 14   |   | 4) 骨の生理的な機能         |                       |
| 15   |   | 5) 関節と骨格筋の構造と機能、可動性 |                       |
| 16   |   | 6) 姿勢 立位の保持         |                       |
| (45分)  | 7) 骨格筋の構造と作用、神経支配   |                     |                       |
| 17   | 8) 体幹の骨格と筋  |                     |                       |
| 18   | 9) 上肢の骨格と筋  |                     |                       |
| 19   | 10) つまむ   |                     |                       |
| 20   | 11) 下肢の運動   |                     |                       |
| 21   | 12) 歩く  |                     |                       |
| 22   | 13) 頭頸部の骨格と筋  |                     |                       |
| 23   | 14) 表情  |                     |                       |
| 24   | 15) 筋の収縮  |                     |                       |
| (45分)  | (神経から筋への指令と筋の収縮)  |                     |                       |
| 25   | 終了試験  |                     |                       |
| (45分)  |   |                     |                       |
| 授業方法   | 講義  |                     |                       |
| 評価方法   | 筆記試験 100点満点 評価基準参照  |                     |                       |
| テキスト   | 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学  |                     |                       |
| 参考図書   | 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経<br>医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器<br>日本看護協会出版会：看護 形態機能学 医学書院：目で見るからだのメカニズム |                     |                       |
| 備考   | 特記なし  |                     |                       |

|  |  |         |          |
|--|--|---------|----------|
| 科目区分   | 専門基礎分野   | 授業科目    | 生化学      |
| 講師名  | 中村 瑞子  | 実務経験の有無 | 有        |
| 単位数(時間)  | 1単位(15時間)  | 開講年次・学期 | 1年次 第2学期 |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ  | 人体の構成要素・調整機能や、様々な疾病の原因と治療につながる生体成分の胴体を理解し、看護に活かしてほしい。  |         |          |
| <p>科目目的：人の構成要素と調整機能を学ぶ。</p> <p>科目目標：1. 人の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝を理解する。<br/>2. 様々な疾病の原因と治療につながる生体成分の動態を理解する。</p> |  |         |          |
| 授 業 内 容  |  |         |          |
| 第1回  | 1. 生化学を学ぶための基礎知識                                       |         |          |
| 第2回  | 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素, ビタミン                                  |         |          |
| 第3回  | 3. 糖質の構造と機能  |         |          |
| 第4回  | 4. 糖質代謝  |         |          |
| 第5回  | 5. 脂質の構造と機能  |         |          |
| 第6回  | 6. 脂質代謝  |         |          |
| 第7回  | 7. タンパク質の構造と機能<br>8. タンパク質代謝, 核酸の構造と機能<br>9. 遺伝情報とその発現 |         |          |
| 第8回<br>(45分)   | 終了試験   |         |          |
| 授業方法   | 講義(3校合同)   |         |          |
| 評価方法   | 科目終了試験 100点満点 評価基準参照                                   |         |          |
| 教科書  | 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学                     |         |          |
| 参考書  |  |         |          |
| 備考   |  |         |          |

|   |   |         |          |
|---|---|---------|----------|
| 科目区分  | 専門基礎分野  | 授業科目    | 微生物学     |
| 講師名   | 木永 芙美・奥村 優  | 実務経験の有無 | 有        |
| 単位数(時間)   | 1単位(30時間)   | 開講年次    | 1年次 第1学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ  |   |         |          |
| 目的:微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ<br>目標:1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解できる<br>2. 生体に及ぼす影響の対応について理解できる |   |         |          |
| 回   | 授 業 内 容   |         |          |
| 1   | 1. 微生物と微生物学<br>1)微生物の性質 2)微生物と人間 3)微生物学の対象と目的 4)微生物学の歩み                             |         |          |
| 2   | 1. 細菌の性質<br>1)微生物の性質 2)培養環境と栄養 3)細菌の遺伝 4)細菌の分類                                      |         |          |
| 3   | 1. 真菌の性質<br>1)真菌の形態と特徴 2)真菌の増殖 3)栄養と培養<br>2. 原虫の性質<br>1)原虫の性質と基本構造 2)病原原虫の種類        |         |          |
| 4   | 1. ウイルスの性質<br>1)ウイルスの特徴 2)ウイルスの構造と機能 3)ウイルスの増殖 4)ウイルスの分類                            |         |          |
| 5   | 1. 感染と感染症<br>1)微生物感染の機構 2)感染の成立から発症・治癒まで 細菌感染の機構<br>3)真菌感染の機構 4)原虫感染の機構 5)ウイルス感染の機構 |         |          |
| 6   | 1. 感染に対する生体防御機構 1)自然免疫の仕組み 2)獲得免疫のしくみ<br>3)粘膜免疫の仕組み 4)感染の特徴と症状                      |         |          |
| 7   | 1. 感染源・感染経路からみた感染症<br>1)経口感染 2)経気道感染 3)接触感染 4)経皮感染 5)母児感染                           |         |          |
| 8   | 1・滅菌と消毒 1)バイオハザードとバイオセーフティ 2)滅菌・消毒の意義と定義<br>3)滅菌法 4)濾過除菌 5)消毒と消毒薬<br>2. 微生物学を看護に生かす |         |          |
| 9   | 1. 感染症の検査と診断 1)病原体を検出する方法 2)生体反応から診断する方法  |         |          |
| 10  | 1. 感染症の治療 1)化学療法の基礎 2)各種の化学療法薬 3)その他の治療薬  |         |          |
| 11  | 1. 病原細菌と細菌感染症<br>1)グラム陽性球菌 2)グラム陰性球菌 3)グラム陰性好気性桿菌 他                                 |         |          |
| 12  | 1. 病原真菌と真菌感染症 2. 病原原虫と原虫感染症   |         |          |
| 13  | 1. 病原ウイルスとウイルス感染症<br>1)DNAウイルス 2)RNAウイルス3)ウイルスの臨床的分類                                |         |          |
| 14  | 1. 感染症の現状と対策 1)感染症の変遷 2)感染症の現状と問題点 3)感染症への対策  |         |          |
| 15(45分)   | 1. 新興感染症(COVID-19 etc)  |         |          |
| 16(45分)   | 終了試験  |         |          |
| 授業方法  | 講義  |         |          |
| 評価方法  | 筆記試験 100点満点 評価基準参照  |         |          |
| テキスト  | 医学書院:系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学   |         |          |
| 備考  | 特記なし  |         |          |



| 科目区分                                 | 専門基礎分野  | 授業科目   | 病理学総論    |
|--------------------------------------|---|--|----------|
| 講師名                                  | 並河 徹  | 実務経験の有無  | 有        |
| 単位数(時間)                              | 1単位(30時間)   | 開講年次   | 1年次 第1学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ                 | 事前に配布した資料をスライドを見て完成させる形で授業を進めます。特に予習は必要ありませんが、(授業後でもよいので)教科書は読むようにしてください。 |  |          |
| 目的: 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解する。 |   |  |          |
| 目標: 1. 健康から疾病に至る変化について理解できる。         |   |  |          |
| 2. 疾病がもたらす身体内部の変化について理解できる。          |   |  |          |
| 回                                    | 授 業 内 容   |  |          |
| 1                                    | 1. 病理学とは (1章)   | 1) 病気の原因 ①内因 ②外因 ③公害病・医原病・職業がん<br>2) 疾病分類                              |          |
| 2                                    | 2. 細胞・組織の障害と修復 (2,3章)   | 1) 細胞の損傷と適応<br>2) 組織の修復と創傷治癒   |          |
| 3・4                                  | 3. 生体の障害<br>1) 循環障害 (4章)  | 1) 浮腫 2) 充血とうっ血 3) 出血<br>4) 血栓症・塞栓症 5) 虚血と梗塞 6) 高血圧症<br>7) ショック 8) DIC |          |
| 5                                    | 2) 炎症と損傷 (5章)   | 1) 炎症とその分類   |          |
| 6                                    | 3) 免疫 (6章)  | 2) 免疫と免疫不全   |          |
| 7                                    | 3) 免疫 (6章)  | 3) アレルギーと自己免疫疾患  |          |
| 8                                    | 4) 移植と再生医療 (2,3章 P83, 84)   | 4) 移植と再生医療   |          |
| 9                                    | 5) 代謝障害 (8章)  | 1) 脂質代謝障害<br>2) タンパク質代謝異常<br>3) その他の代謝 ①ビリルビン代謝 ②黄疸の分類                 |          |
| 10                                   | 6) 老化と死 (9,13章)   | 1) 加齢に伴う諸臓器の変化<br>2) 個体の死 ①死の判定と死因の究明 ②脳死と植物状態                         |          |
| 11                                   | 7) 先天異常と遺伝子異常 (10,11章)  | 1) 先天異常<br>2) 遺伝子の異常と疾患  |          |
| 12                                   | 8) 腫瘍 (12章)   | 1) 腫瘍の定義と分類  |          |
| 12                                   |   | 2) 腫瘍の広がりと影響   |          |
| 13                                   |   | 3) 腫瘍の発生機序   |          |
| 14                                   |   | 4) 腫瘍の診断   |          |
| 15<br>(45分)                          |   | 5) 腫瘍の統計   |          |
| 16<br>(45分)                          | 終了試験  |  |          |
| 授業方法                                 | 講義 (3校合同)   |  |          |
| 評価方法                                 | 筆記試験 100点満点 評価基準参照  |  |          |
| テキスト                                 | 医学書院: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学                                  |  |          |
| 参考図書                                 | 医学書院: 目で見るからだのメカニズム   |  |          |
| 備考                                   | 特記なし  |  |          |

| 科目区分                                       | 専門基礎分野  | 授業科目   | 病態治療学 I     |
|--|---|--|-------------|
| 講師名  | 高橋 節(12) 生田 幸広(8)<br>山尾 有加(10)  | 実務経験の有無  | 有           |
| 単位数(時間)                                    | 1単位(30 時間)  | 開講年次   | 1 年次 第 2 学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ                       |   |  |             |
| 目的: 生命をつかさどる各器官の疾病要因・発生機序、経過および治療方法を理解できる。 |   |  |             |
| 目標: 1. 消化器疾患の病態生理、検査と治療、処置について理解する。        |   |  |             |
| 2. 内分泌疾患の病態生理、検査と治療について理解する。               |   |  |             |
| 回  | 授 業 内 容   |  |             |
| 1  | 消化器   | 1. 食道の疾患 1) 食道がん 2) 胃食道逆流症   |             |
| 2  |   | 2. 胃・十二指腸疾患 1) 急性胃炎、慢性胃炎<br>2) 胃潰瘍 3) 十二指腸潰瘍 4) 胃がん  |             |
| 3  |   | 3. 腸および腹膜疾患<br>1) 腸炎 2) 腹膜炎 3) 潰瘍性大腸炎 4) クローン病   |             |
| 4  |   | 5) 虫垂炎 6) ヘルニア 7) 腸閉塞<br>8) 寄生虫疾患 9) 消化管憩室 10) 腸管ポリープ  |             |
| 5  |   | 11) 大腸がん(結腸癌、直腸がん) 12) 肛門疾患  |             |
| 6  |   | 4. 肝臓・胆嚢の疾患<br>1) 肝炎ウイルス 2) 急性肝炎 3) 慢性肝炎   |             |
| 7  |   | 4) 薬剤性肝障害 5) アルコール性肝炎 6) 脂肪肝 7) 肝硬変  |             |
| 8  |   | 8) 門脈圧亢進症 9) 肝不全 10) 肝がん   |             |
| 9  |   | 11) 胆石症 12) 急性胆嚢炎 13) 胆管がん 14) 胆のうがん   |             |
| 10   |   | 5. 膵臓の疾患 1) 急性膵炎 2) すい臓がん  |             |
| 11   | 内分泌疾患   | 1. 視床下部—下垂体前葉系<br>1) 先端巨大症 2) クッシング症候群 3) 下垂体機能低下症   |             |
| 12   |   | 2. 視床下部—下垂体後葉系<br>1) 尿崩症 2) SIADH<br>3. 甲状腺疾患<br>1) 橋本病 2) バセドウ病 甲状腺機能低下症 3) 甲状腺機能低下症<br>4) 甲状腺炎 5) 甲状腺腫瘍<br>4. 副甲状腺疾患<br>5. 副腎疾患 1) 原発性アルドステロン症 2) クッシング症候群 |             |
| 13   | 代謝疾患  | 1. 糖尿病<br>1) 糖尿病の分類 2) 診断<br>3) 治療 ①薬物療法 ②食事療法 ③運動療法<br>4) 糖尿病慢性合併症  |             |
| 14   |   | 2. 脂質異常症<br>3. 肥満症・メタボリックシンドローム  |             |
| 15(45分)                                    |   | 4. 尿酸代謝異常 1) 高尿酸結晶 2) 痛風   |             |
| 16(45分)                                    | 終了試験  |  |             |
| 授業方法                                       | 講義  |  |             |
| 評価方法                                       | 筆記試験 100 点満点 評価基準参照   |  |             |
| テキスト                                       | 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器<br>医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 |  |             |
| 備考   |   |  |             |

| 科目区分   | 専門基礎分野  | 授業科目  | 病態治療学Ⅱ<br>(呼吸器、循環器、腎・泌尿器) |  |
|--|---|---|---------------------------|--|
| 講師名  | 松岡 佑樹(4) 柳川 崇(6)<br>神澤 和慶(7) 明石 晋太郎(12)   | 実務経験の有無                                     | 有                         |  |
| 単位数(時間)  | 1 単位(30 時間)   | 開講年次  | 1 年次 第 2 学期               |  |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ   |   |   |                           |  |
| 目的:生命をつかさどる各器官の疾病要因・発生機序、経過および治療方法を理解できる。<br>目標:各臓器に現れる疾患の病態生理、検査と治療・処置について理解する。 |   |   |                           |  |
| 回  | 授 業 内 容   |   |                           |  |
| 1  | 呼吸器   | 1. 感染症                                      |                           |  |
| 2  |   | 2. 間質性肺疾患<br>3. 気道疾患                        |                           |  |
| 3  |   | 4. 肺循環疾患<br>5. 呼吸不全<br>6. 呼吸調整に関する疾患        |                           |  |
| 4  |   | 7. 肺腫瘍                                      |                           |  |
| 5  |   | 8. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患                             |                           |  |
| 6  |   | 循環器   | 1. 血圧異常                   |  |
| 7  |   |   | 2. 虚血性心疾患                 |  |
| 8  |   |   | 3. 不整脈                    |  |
| 9  | 4. 弁膜症<br>5. 心膜炎<br>6. 心筋疾患   |   |                           |  |
| 10   | 7. 心不全  |   |                           |  |
| 11   | 10.動脈系疾患<br>11.静脈系疾患<br>12.リンパ系疾患   |   |                           |  |
| 12   | 腎・泌尿器   |   | 1. 腎不全と AKI・CKD           |  |
| 13   |   | 2. ネフローゼ症候群<br>3. 糸球体腎炎<br>4. 全身疾患による腎障害    |                           |  |
| 14   |   | 5. 尿路・性器の感染症<br>6. 尿路の通過障害と機能障害<br>7. 尿路結石症 |                           |  |
| 15(45分)  |   | 8. 尿路・性器の腫瘍                                 |                           |  |
| 16(45分)  |   | 終了試験  |                           |  |
| 授業方法   |   | 講義  |                           |  |
| 評価方法   | 筆記試験 100 点満点 評価基準参照   |   |                           |  |
| テキスト   | 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器 |   |                           |  |
| 備考   |   |   |                           |  |

| 科目区分  | 専門基礎分野   | 授業科目   | 病態治療学Ⅲ<br>(血液造血・免疫・感覚器・生殖器) |
|---|--|--|-----------------------------|
| 講師名   | 北條 宣政(14) 神澤 和慶(1)<br>小林 正幸(4) 高橋 節(2)<br>眼科(2) 皮膚科(2)3 校合同講師<br>都田 絵梨奈(1) 青井 典明(3)  | 実務経験の有無  | 有                           |
| 単位数(時間)   | 1単位(30 時間)   | 開講年次   | 1年次 第2 学期                   |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ  |  |  |                             |
| 目的: 生命をつかさどる各器官の疾病要因・発生機序、経過および治療方法を理解できる。<br>目標: 1. 血液・造血器疾患の病態生理、治療、検査、処置について理解できる。<br>2. 免疫疾患の病態生理、治療、検査、処置について理解できる。<br>3. 感覚疾患の病態生理、治療、検査、処置について理解できる。<br>4. 女性生殖器疾患の病態生理、治療、検査、処置について理解できる。 |  |  |                             |
| 回   | 授 業 内 容  |  |                             |
| 1   | 血液・造血  | 1. 赤血球系の異常   |                             |
| 2   |  | 2. 白血球系の異常   |                             |
| 3   |  | 3. 造血器腫瘍   |                             |
| 4   |  | 4. 出血性疾患   |                             |
| 5   | 免疫   | 1. 全身性エリテマトーデス(SLE) 2. 関節リウマチとその類縁疾患<br>3. シェーグレン症候群                       |                             |
| 6   |  | 4. アレルギー 5. アレルギー性鼻炎・結膜炎 6. 蕁麻疹<br>7. 接触皮膚炎 8. アナフィラキシーショック                |                             |
| 7   |  | 9. 敗血症、菌血症 10. ヒト免疫不全ウイルス、HIV 感染症  |                             |
| 8   | 感覚:皮膚  | 1. アトピー性皮膚炎 2. 湿疹・皮膚炎群   |                             |
| 9   | 感覚:眼   | 1. 特殊感覚の障害、視機能に関連した症状、<br>2. 網膜・硝子体の疾患と手術、水晶体の疾患と手術<br>3. 白内障、緑内障、網膜剝離、網膜症 |                             |
| 10<br>(3 時間/135 分)  | 感覚:耳鼻  | 1. 難聴、めまい 2. 顔面神経 3. 鼻・副鼻腔疾患<br>4. 咽喉頭疾患 5. 頭頸部腫瘍                          |                             |
| 11<br>(45 分)  | 感覚:歯・口腔  | 1. 齲歯および歯髄疾患、口腔領域の炎症 4. 口腔内腫瘍(舌がん)   |                             |
| 12  | 生殖器  | 1. 女性生殖器の疾患 2. 腫瘍  |                             |
| 13  |  | 3. 性腺疾患、月経異常・月経随伴症状、更年期障害 4. 尿路・性器の感染症                                     |                             |
| 14  |  | 5. 乳腺良性腫瘍性疾患 6. 乳がん(乳腺悪性疾患)  |                             |
| 15<br>(45 分)  |  | 7. 精巣および性機能障害、男性不妊症、男性性機能障害<br>その他の男性生殖器疾患 8. STD(性感染症)                    |                             |
| 16(45 分)  | 終了試験   |  |                             |
| 授業方法  | 講義 (一部 3 校合同)  |  |                             |
| 評価方法  | 筆記試験 100 点満点 評価基準参照  |  |                             |
| テキスト  | 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12]皮膚<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13]眼<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14]耳鼻咽喉<br>医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15]歯・口腔 |  |                             |
| 備考  | 特記なし   |  |                             |

| 科目区分  | 専門基礎分野   | 授業科目  | 病態治療学Ⅳ<br>(脳神経・神経筋・運動器) |
|---|--|---|-------------------------|
| 講師名   | 木村 麗新(10) 柿丸 裕之(12)<br>足立 芳樹・下山 良二(8)                                | 実務経験の有無   | 有                       |
| 単位数(時間)   | 1単位(30時間)  | 開講年次  | 1年次 第2学期                |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ  |  |   |                         |
| 目的: 生命をつかさどる各器官の疾病要因・発生機序、経過および治療方法を理解できる。<br>目標: 1. 脳神経疾患の病態生理、検査と治療、処置について理解する。<br>2. 運動器疾患の病態生理、検査と治療について理解する。 |  |   |                         |
| 回   | 授業内容   |   |                         |
| 1-3   | 脳神経  | 1. 脳血管障害 統計疫学<br>1) 主な症状とその病態生理<br>・症状と病態生理<br>①意識障害 ②高次機能障害 ③運動性機能障害<br>④感覚機能障害 ⑤反射性運動の障害 ⑥頭蓋内圧亢進症上と脳ヘルニア ⑦頭痛 ⑧自律神経障害<br>・検査と所見<br>2) 疾患と治療<br>①くも膜下出血(原因、診断、治療(再破裂予防)、再破裂)<br>②未破裂動脈瘤 ③脳出血(脳内出血)④脳梗塞 ⑤もやもや病 ⑥TIA<br>・発生機序 ・病型(アテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞、塞栓症による脳梗塞、心原性・その他)・発生頻度・症状・検査・治療(超急性期、急性期、慢性期、外科的治療)<br>2. 脳腫瘍1)分類と発生頻度 2)症状 3)治療 |                         |
| 4-5   |  | 3. 頭部外傷<br>1) 頭がい骨骨折<br>2) 局所脳挫傷(急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫)<br>4. 脳髄液の異常 1) 正常性水頭症<br>5. 頸椎疾患 1) 頸椎損傷   |                         |
| 6   | 神経筋疾患  | 6. 末梢神経障害(多発ニューロパチー、ギランバレー症候群、各種神経障害等<br>7. 筋疾患(筋ジストロフィー(DMD・BMD)、多発性筋炎、重症筋無力症)   |                         |
| 7   |  | 8. 脱髄・変性疾患<br>1) 多発性硬化症 2) パーキンソン病 3) ALS   |                         |
| 8   |  | 9. 脳神経系の感染症<br>1) 脳炎(ヘルペス) 2) 髄膜炎(細菌性・結核性) 3) HIV脳症 4) クロイツフェルトヤコブ病 5) 破傷風  |                         |
| 9   |  | 10. 認知症<br>1) アルツハイマー型認知症 2) 血管性認知症 3) レビー小体型認知症  |                         |
| 10  | 運動器  | 1. 骨折<br>1) 骨折の分類(外傷性骨折、病的骨折、疲労骨折、屈曲骨折、せんだん骨折、捻転骨折、圧迫骨折等)<br>2) 骨治癒の病態生理・診断・治療<br>①救急処置、②骨折治療の原則(整復、固定、リハビリ)③観血的整復固定術<br>3) 各種骨折 ①鎖骨骨折 ②肋骨骨折 ③上腕骨骨折   |                         |
| 11  |  | ⑥大腿骨近位部骨折 ⑦大腿骨骨幹部骨折 ⑧脊椎骨折(頸椎以外)<br>2. 脱臼 3. 捻挫 4. 打撲  |                         |
| 12  |  | 5. 筋・腱・靭帯などの損傷<br>6. 下肢帯の疾患1) 扁平足 2) 外反母趾<br>7. 神経損傷1) 脊髄損傷 2) 末梢神経損傷 ①分類 ② 診断  |                         |
| 13  |  | 3) 脊椎疾患(内因性要因)<br>8. 骨腫瘍1) 良性腫瘍2) 悪性腫瘍 ①骨肉腫 ②転移性骨腫瘍<br>4) 良性軟部腫瘍①脂肪腫 ②血管腫   |                         |
| 14<br>15(45分)   |  | 9. 炎症性疾患<br>1) 化膿性脊椎炎 2) 肩関節周囲炎 3) 痛風<br>10. 関節の変性疾患<br>1) 変形性股関節症 2) 変形性膝関節症   |                         |
|   |  | 11. 骨粗しょう症1) 病態 2) 症状 3) 検査 4) 治療   |                         |
| 16(45分)   |  | 終了試験  |                         |
| 授業方法  | 講義   |   |                         |
| 評価方法  | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |   |                         |
| テキスト  | 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経<br>医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 |   |                         |
| 備考  |  |   |                         |

| 科目区分   | 専門基礎分野  | 授業科目  | 栄養学      |  |
|--|---|---|----------|--|
| 講師名  | 別府 成人(14)<br>坂根 良和(16)  | 実務経験の有無   | 有        |  |
| 単位数(時間)  | 1単位(30時間)   | 開講年次  | 1年次 第1学期 |  |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ  |   |   |          |  |
| <p>目的: 1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて、栄養の基本的概念と各種栄養素について学ぶ<br/>2. 健康の維持増進、健康障害の食事療法に関する基礎的知識を学ぶ</p> <p>目標: 1. 人間にとっての栄養の意義について理解できる<br/>2. 栄養素の種類と働き、代謝について理解できる<br/>3. 病態の応じた栄養アセスメントと疾患別の食事療法について理解できる。</p> |   |   |          |  |
| 回  | 授業内容  |   |          |  |
| 1  | 栄養学   | 1. 人間栄養学と看護   |          |  |
| 2  |   | 2. 栄養素の種類とはたらき  |          |  |
| 3  |   | 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝  |          |  |
| 4  |   | 4. エネルギー代謝、食事と食品  |          |  |
| 5  |   | 5. ライフステージと栄養   |          |  |
| 6  |   | 6. 栄養アセスメントの基本(別巻)<br>7. 医療・福祉の場における栄養食事療法(別巻)              |          |  |
| 7  | 臨床栄養<br>栄養食事療法  | 1. 栄養補給法<br>2. 病院食(種類、形態的分類、成分的分類)(下線部は別巻)<br>3. 経腸栄養製品     |          |  |
| 8,9  |   | 4. 症状をもつ患者の栄養食事療法<br>5. 呼吸器疾患患者の栄養食事療法<br>6. 循環器疾患患者の栄養食事療法 |          |  |
| 10   |   | 7. 消化器疾患患者の栄養食事療法   |          |  |
| 11   |   | 8. 術前・術後の栄養管理<br>9. 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法                        |          |  |
| 12   |   | 10. 栄養・代謝性疾患患者の栄養食事療法<br>11. 血液疾患患者の栄養食事療法                  |          |  |
| 13   |   | 12. アレルギー疾患患者の栄養食事療法<br>13. 精神・神経疾患患者の栄養食事療法                |          |  |
| 14   |   | 14. 熱傷、褥瘡の栄養食事療法<br>15. がん患者の栄養食事療法(がんの食事療)                 |          |  |
| 15<br>(45分)  |   | 16. 健康づくりと食生活   |          |  |
| 16<br>(45分)  |   | 終了試験  |          |  |
| 授業方法   |   | 講義 (3校合同)   |          |  |
| 評価方法   | 筆記試験 100点満点 評価基準参照  |   |          |  |
| テキスト   | 医学書院: 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③<br>医学書院: 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 |   |          |  |
| 備考   |   |   |          |  |

|   |  |  |                     |
|---|--|--|---------------------|
| 科目区分  | 専門基礎分野                                   | 授業科目   | 薬理学総論・各論<br>(臨床薬理学) |
| 講師名   | 濱岡 照隆<br>藤田 秀樹                           | 実務経験の有無  | 有                   |
| 単位数(時間)   | 2単位 30時間                                 | 開講年次   | 1年次 第2学期            |
| 授業概要<br>*講師からの<br>メッセージ   |  |  |                     |
| <p>目的：薬物の特徴、人体への影響について理解できる。</p> <p>目標：1. 薬理作用と機序が理解できる。<br/>2. 薬効に影響を及ぼす因子について理解できる。<br/>3. 薬の取り扱い、有害作用について理解できる。<br/>4. 系統別な主な薬剤の作用、副作用を理解する。</p> |  |  |                     |
| 回数  | 授 業 内 容                                  |  |                     |
| 1   | 総論                                       | 1. 薬とは<br>2. 薬理作用と機序<br>1) 薬が作用する仕組み(薬力学) 2) 投与経路 3) 吸収、分布、代謝、排泄   |                     |
| 2   |  | 3. 薬効に影響を及ぼす因子<br>1) 年齢別の薬効 2) 混合の可否 3) 薬物相互作用<br>4. 薬の有害作用(薬物の副作用)<br>1) 薬物中毒がおこる原因 2) 特に注意の必要な対象 3) 血中濃度 |                     |
| 3   |  | 5. 医薬品に関する法律<br>1) 劇薬・毒薬・向精神薬等の種類と取り扱い 2) 新薬の開発と治験<br>6. 消毒薬の取り扱い  |                     |
| 4   |  | 7. 薬物療法における看護師の役割 チーム医療<br>1) 処方箋の見方とシステム 2) 薬品の管理 3) 服薬指導<br>4) 看護業務に必要な薬の知識(薬に関する単位、処方、添付文書)             |                     |
| 5   |  | 8. 輸液製剤 1) 電解質輸液製剤 2) 栄養輸液製剤 3) その他の輸液製剤   |                     |
| 6   | 各論                                       | 1. 抗感染症治療薬<br>1) 抗菌作用のしくみ 2) 抗菌薬の特徴 3) 抗菌薬の種類と特徴 4) 薬物耐性   |                     |
| 7   |  | 2. 抗がん剤治療薬<br>1) 抗がん作用のしくみ 2) 抗がん剤の種類と特徴<br>3) 抗がん剤使用時、副作用軽減のために使用する薬剤                                     |                     |
| 8   |  | 3. 免疫治療薬 1) 免疫反応と免疫抑制剤 2) 免疫増強剤、予防接種   |                     |
| 9   |  | 4. 抗アレルギー薬、抗炎症薬<br>1) 抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬 2) 炎症と抗炎症薬(副腎皮質ステロイド薬)   |                     |
| 10・11   |  | 5. 末梢、中枢神経作用薬<br>1) 交感神経作用薬、副交感神経作用薬 2) 筋弛緩薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬   |                     |
| 12・13   |  | 6. 心臓、血管系に作用する薬<br>1) 強心薬、抗不整脈薬 2) 狭心症治療薬 3) 降圧薬、昇圧薬 利尿薬   |                     |
| 14  |  | 7. 救急の際に使用される薬物<br>8. 呼吸、消化器系に作用する薬<br>1) 気管支喘息治療薬 2) 消化性潰瘍薬、消化管運動促進薬                                      |                     |
| 15  |  | 9. 物質代謝に作用する薬物 1) 糖尿病治療薬   |                     |
| 16(45分)   |  | 終了試験   |                     |
| 授業方法  | 講義                                       |  |                     |
| 評価方法  | 筆記試験(100%) 評価基準参照                        |  |                     |
| 教科書   | 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 |  |                     |
| 備考  | 特記なし                                     |  |                     |

| 科目区分  | 専門基礎分野   | 授業科目   | 治療論      |
|---|--|--|----------|
| 講師名   | 吉田 弘太郎(4) 新田 美喜子(4)<br>今代 元太(4) 渡邊 直美(3)<br>中田 健(2) 當田 晶子(4)<br>平野 哲生(8)   | 実務経験の有無  | 有        |
| 単位数(時間)   | 1単位(30時間)  | 開講年次   | 1年次 第2学期 |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ   |  |  |          |
| 目的:健康回復を促進する治療法を理解し、看護実践に必要な知識を学ぶ。<br>目標:1.麻酔と周手術期の全身管理の基礎を理解する。<br>2.心肺蘇生法について理解する。<br>3.重症外傷、重症熱傷等救急医療について理解できる。<br>4.画像診断の基礎を理解する。<br>5.放射線治療を受ける患者の看護実践に必要な知識を習得する。<br>6.リハビリテーションの基礎と看護実践に必要な知識を習得する。<br>7.がん化学療法を受ける患者の看護実践に必要な知識を習得する。 |  |  |          |
| 回   | 授業内容   |  |          |
| 1   | 手術療法   | 1.外科看護の基礎 手術侵襲と生体反応<br>2.外科的治療の実際 外科的基本手技<br>1)切創 2)縫合 3)抜糸 4)止血 5)胃管チューブの挿入   |          |
| 2   |  | 3.麻酔法<br>1)麻酔とは 2)麻酔の種類 3)術前管理(問診と診察、術前身体的評価、精神的ケア、経口制限、術前輸液、内服薬の中止等) 4)術中管理(術中モニター、体位) 5)全身麻酔(気道の確保、麻酔導入法) 6)局所麻酔         |          |
| 3   |  | 4.呼吸管理 5.体液管理(手術期の輸液管理)<br>6.外科手術における栄養管理 7.輸血療法   |          |
| 4   |  | 8.術後管理(術後疼痛管理、ドレーン管理)<br>9.術後合併症発生機序<br>10.おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応   |          |
| 5   | 救急法  | 1.救急医療体制 2.医療施設内の救急部門<br>3.救急患者の対象の理解<br>4.主要病態に対する救急処置と看護<br>1)救急処置法の原則(救急処置のABC、バイタルサインの評価、意識障害の評価、感染防御、BLS、ALS、小児の心肺蘇生) |          |
| 6・7   |  | 4.外傷への対応 5.熱傷への対応 6.中毒への対応 7.溺水への対応<br>8.刺咬症への対応   |          |
| 8   | 放射線療法<br>(画像診断)  | 1.画像診断 1)X線診断 2)CT 3)MRI 4)超音波検査<br>5)各医学検査 6)IVR・血管造影   |          |
| 9   | 放射線療法<br>(放射線治療)   | 2.放射線治療総論<br>1)放射線治療の原理と基礎 2)放射線治療の特徴と目的<br>3)照射法種類 4)放射線治療各論 ①脳腫瘍 ②頭頸部がん 等<br>3.放射線防護                                     |          |
| 10  | リハビリ<br>テーション  | 1.リハビリテーション概論<br>2.リハビリテーション医療の提供  |          |
| 11・12   |  | 3.リハビリテーションの実際<br>1)廃用症候群の予防 2)他動的関節可動域運動 <演習含む><br>3)筋力増強運動 ①等尺性運動(大腿四頭筋セッティング)②等張性運動<br>③松葉杖歩行<演習含む>                     |          |
| 13  |  | 4)日常生活援助(作業療法) 1)更衣 2)整容 3)食事(自助具の選択)  |          |
| 14<br>15(45分)   | がん化学療法   | 1.がんの治療 薬物療法<br>2.化学療法の治療計画について(レジメン)<br>3.がん化学療法の実際 4.高齢者に対する化学療法<br>5.入院化学療法と外来化学療法 6.チームアプローチの調整                        |          |
| 16(45分)   |  | 終了試験   |          |
| 授業方法  | 講義   |  |          |
| 評価方法  | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |  |          |
| テキスト  | 医学書院:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論<br>医学書院:系統看護学講座 別巻 救急看護学<br>医学書院:系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学<br>医学書院:系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護<br>医学書院:系統看護学講座 別巻 がん看護学 |  |          |
| 備考  |  |  |          |



| 科目区分   | 専門基礎分野  | 授業科目     | 臨床推論        |
|--|---|----------|-------------|
| 講師名  | 田向 宏和   | 実務経験の有無  | 有           |
| 単位数（時間）  | 1 単位（30 時間）   | 開講年次     | 3 年次 第 2 学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ   |   |          |             |
| <p>目的：患者とその家族を対象の状況を把握・アセスメントし、その上で臨床推論することで最善の看護行動に結びつけることができる。</p> <p>目標：1. アセスメントに活かす臨床推論技術が理解できる。<br/>2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメントが理解できる。<br/>3. 臨床推論技術を活用しケースにおける最善の看護行動を考えることができる。</p> |   |          |             |
| 回  | 授 業 内 容   |          |             |
| 1  | 1. アセスメントに活かす臨床推論技術   |          |             |
| 2  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 発熱・高体温   |             |
| 3  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 呼吸困難     |             |
| 4  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 低血圧      |             |
| 5  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 高血圧      |             |
| 6  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 浮腫       |             |
| 7  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 手のしびれ・麻痺 |             |
| 8  | 2. 緊急レベル信号で判断する症状別アセスメント  | 高齢者のケア   |             |
| 9～10<br>【演習】   | 1) アセスメントトレーニング その1 高齢者 インフルエンザ SPO <sub>2</sub><br>→ 80 歳、女性。インフルエンザで自宅療養中。4 日経っても症状改善なく入院。既往歴に気管支喘息 SPO <sub>2</sub> 95%→88%、GCS10 点（E3V3M4）、肩呼吸あり、37.8C→38.5℃  |          |             |
| 11～12<br>【演習】  | 3. アセスメントトレーニング その2 成人期・交通事故・呼吸困難の事例<br>→25 歳、男性。バイク走行中に交通事故で救命救急センターに搬送。JCS I-1、右肺 Air 入り不良、左右差あり  |          |             |
| 13～14<br>【演習】  | 3. アセスメントトレーニング その3 青年期・下肢のむくみ・倦怠感の事例<br>→17 歳、男性。下肢むくみ。母親とともに来院。全身性浮腫。意識レベル清明、歩行時軽度息切れ。BUN2.8mg/dl、Cr2.3mg/dl、ASO338IU/ml、C <sub>3</sub> 18mg/dl、CH <sub>50</sub> 20U/ml。脳タンパク陽性、尿潜血陽性、BP142/84mmHg やや上昇 |          |             |
| 15   | まとめ 45 分 終了試験 45 分  |          |             |
| 授業方法   | 講義＋演習（個人ワークとグループワーク→意見交換）   |          |             |
| 評価方法   | 科目修了試験 90% ＋ 演習ノート提出 10% 評価基準参照   |          |             |
| テキスト   | MC メディカ出版：小澤知子 アセスメントに自信がつく臨床推論入門   |          |             |
| 備考   |   |          |             |

|  |  |         |             |
|--|--|---------|-------------|
| 科目区分   | 専門基礎分野   | 授業科目    | 医療倫理        |
| 講師名  | 北條 宣政(8) 三浦 麗子(7)  | 実務経験の有無 | 有           |
| 単位数(時間)  | 1 単位(15 時間)  | 開講年次    | 3 年次 第 2 学期 |
| 講義概要<br>メッセージ  | 近年の遺伝子学の発展と法的・倫理問題、脳死と臓器移植における自己決定権や人権の重要性について理解を深めましょう。   |         |             |
| <p>目的: 医療・看護における倫理に関する知識を修得し、生命及び人の尊厳について理解する。</p> <p>目標: 1. 医療における倫理的課題を理解する。<br/> 2. 生命の尊厳と人権について理解する。<br/> 3. 看護職としての倫理的責任について理解する。</p> |  |         |             |
| 回  | 講義内容   |         |             |
| 医師担当 15 時間のうち 8 時間   |  |         |             |
| 1  | 1. 人権尊重について<br>1) 倫理とは                      2) 人権とは<br>2. 看護に期待するもの<br>1) 生命と倫理をめぐる諸問題 2) 主な倫理綱領 |         |             |
| 2  | 3. 医療における患者の権利<br>1) インフォームドコンセントとは  |         |             |
| 3  | 4. 死の意味と概念・死の倫理(生命と死、死の定義、死の判定、脳死の概念)<br>1) 現代医療における死 2) 緩和ケア、ターミナルケア                            |         |             |
| 4  | 5. 脳死と臓器移植<br>6. 先端医学と倫理 遺伝子治療と看護  |         |             |
| 看護職担当 15 時間のうち 6 時間+試験1時間(医師+看護職)  |  |         |             |
| 1  | 1. 看護をめぐる倫理的課題   |         |             |
| 2  | 2. 倫理的意思決定   |         |             |
| 3  | 3. 倫理的分析モデル<br>4. 事例検討   |         |             |
| 8<br>(45 分)  | 終了試験   |         |             |
| 講義方法   | 講義、グループワーク   |         |             |
| 評価方法   | 筆記試験 授業態度 評価基準参照   |         |             |
| テキスト   | 医療倫理学のABC, 医学書院<br>医学書院: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1) 看護学概論   |         |             |
| 備考   |  |         |             |

|  |  |         |             |
|--|--|---------|-------------|
| 科目区分   | 専門基礎分野   | 授業科目    | 地域福祉        |
| 講師名  | 椋 明子   | 実務経験の有無 | 有           |
| 単位数 (時間)   | 1 単位 (15 時間)   | 開講年次    | 2 年次 第 1 学期 |
| 授業概要<br>*講師からのメッセージ  | 地域包括ケアシステムの推進を背景に、社会福祉において大きな位置を占めるようになった地域福祉について、社会的動向をふまえながら具体的に実践的に学んでいただきたい。                         |         |             |
| <p>目的：域福祉について、理論・政策・実践のそれぞれの観点から学び、看護実践に活用できるようにする</p> <p>目標：1. 地域福祉の基本的な考え方、理論・重要な概念、発展の歴史について理解する。</p> <p>2. 地域福祉に関する主要な政策、地域福祉を推進していくための方法とその主体について理解する。</p> <p>3. 地域福祉を実践していく上で重要なテーマである子どもと災害という観点から理解する。</p> |  |         |             |
| 回  | 講義内容   |         |             |
| 1  | 1. 地域福祉とは  |         |             |
| 2  | 2. 地域福祉の理念と概念  |         |             |
| 3  | 3. 地域福祉の発展   |         |             |
| 4  | 4. 地域福祉の政策展開   |         |             |
| 5<br>【グループワーク】   | 5. 地域福祉の推進方法<br>地域福祉を推進する人々：コミュニティワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、地域住民とボランティア、民生委員、児童委員              |         |             |
| 6<br>【グループワーク】   | 6. 地域福祉の推進主体<br>地域福祉を推進する団体：社会福祉協議会、自治会、町内会、社会福祉施設、ボランティア・NPO、当事者組織、セルフヘルプグループ、社会的企業、共同募金会、生活協同組合、農業協同組合 |         |             |
| 7  | 7. 子どもと地域福祉<br>災害と地域福祉   |         |             |
| 8<br>(45分)   | 終了試験   |         |             |
| 講義方法   | 講義・GW (5、6で該当者に来てもらい実際に話し合う等)  |         |             |
| 評価方法   | 筆記試験 100点満点 評価基準参照   |         |             |
| テキスト   | 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉<br><br><参考図書> ミネルヴァ書房：よくわかる地域福祉                            |         |             |
| 備考   | 既習関連科目：地域と暮らし  |         |             |

|  |  |         |             |
|--|--|---------|-------------|
| 科目区分   | 専門基礎分野   | 授業科目    | 公衆衛生        |
| 講師名  | 中本 稔   | 実務経験の有無 | 有           |
| 単位数（時間）  | 1 単位（15 時間）  | 開講年次    | 3 年次 第 1 学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ   | 地域における健康増進と疾病予防について、公衆衛生看護を専門とする保健師から実際の活動について学び、看護における患者教育や地域・在宅看護に活かしていきましょう。      |         |             |
| <p>目的：社会・経済・生活環境との関わりから集団を対象とした健康の増進と疾患予防を捉え、地域住民の健康な生活を確保するために必要な基礎的能力を養う</p> <p>目標：1. 公衆衛生の概念とわが国の公衆衛生の歴史的な背景を理解する<br/>2. 健康、疾病、障害とそれを取り巻く環境の影響を理解する<br/>3. 集団の特徴を捉える疫学的方法を理解する<br/>4. 健康を維持増進するための対象に応じた、組織的な保健活動の実際を知る</p> |  |         |             |
| 回  | 授 業 内 容  |         |             |
| 1  | 1. 公衆衛生とは<br>公衆衛生学の概念   ヘルスプロモーション   プライマリヘルスケア<br>健康レベルに応じた活動（ゼロ次予防・一次予防・二次予防・三次予防） |         |             |
| 2  | 2. 公衆衛生の歴史<br>時代とともにみる公衆衛生の歴史と地域保健法・健康日本21・健康増進法 他                                   |         |             |
| 3  | 3. 集団の健康をとらえるための疫学的手法<br>疫学とは、因果関係、実際の活動   |         |             |
| 4  | 4. 対象に応じた公衆衛生活動 ①<br>母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健  |         |             |
| 5  | 5. 対象に応じた公衆衛生活動 ②<br>歯科保健、難病支援・障害支援、感染症対策、環境衛生、食品衛生                                  |         |             |
| 6  | 6. 産業保健と学校保健   |         |             |
| 7<br>(45 分)  | 7. 国際保健  |         |             |
| 8<br>(45 分)  | 終了試験   |         |             |
| 授業方法   | 講義   |         |             |
| 評価方法   | 筆記試験 100 点満点   評価基準参照  |         |             |
| テキスト   | 医学書院：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生  |         |             |
| 備考   |  |         |             |

| 科目区分   | 専門基礎分野  | 授業科目    | 社会福祉        |
|--|---|---------|-------------|
| 講師名  | 池永 綾子   | 実務経験の有無 | 有           |
| 単位数(時間)  | 2 単位(30 時間)   | 開講年次    | 3 年次 第 2 学期 |
| 授業概要<br>* 講師からのメッセージ   | 社会福祉の概要を理解するとともに、保健・医療・福祉各分野の専門職とのコンサルテーションの重要性を学びましょう          |         |             |
| 目的:社会的な援護を要する人が自立した生活を送ることができるように支援する社会福祉について理解を深め、保健・医療・福祉の連携を意識しながら、看護職の立場から対象を支援する方法を学習する                               |   |         |             |
| 目標:1. 社会福祉の概念の変遷を理解する<br>2. 医療・社会保障制度と福祉の関連について理解する<br>3. 社会福祉における医療福祉の位置づけについて理解する<br>4. 医療福祉の視点を理解し、医療・看護に活かすことができるようになる |   |         |             |
| 回  | 講義内容  |         |             |
| I  | 社会福祉総論  |         |             |
| 1  | 1. 社会福祉の歴史  |         |             |
| 2  | 2. 社会保障制度と社会福祉の法制度および社会変化と社会保障・社会福祉の動向<br>現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向  |         |             |
| 3  | 3. 医療保障その1<br>1) 医療保障制度の沿革、構造と体系 2)健康保険と国民健康保険                  |         |             |
| 4  | 4. 医療保障その2<br>1) 高齢者医療制度保険 2)診療のしくみ                             |         |             |
| 5  | 5. 介護保障   |         |             |
| 6  | 6. 所得保障   |         |             |
| 7  | 7. 公的扶助   |         |             |
| II   | 社会福祉各論  |         |             |
| 8  | 1. 社会福祉の分野とサービスその1<br>高齢者福祉                                     |         |             |
| 9  | 2. 社会福祉の分野とサービスその2<br>障害者福祉                                     |         |             |
| 10   | 3. 社会福祉の分野とサービスその3<br>児童家庭福祉                                    |         |             |
| 11<br>【グループワーク】  | 4. 社会福祉実践と医療・看護その1<br>1) 社会福祉援助とは 2)個別援助技術(ケースワーク)              |         |             |
| 12<br>【グループワーク】  | 5. 社会福祉実践と医療・看護その2<br>1) 集団援助技術(グループワーク) 2)間接援助技術と関連援助技術        |         |             |
| 13   | 6. 社会福祉実践と医療・看護その3<br>1)社会福祉の援助の検討課題                            |         |             |
| 14   | 7. 社会福祉実践と医療・看護その4<br>1) 連携の重要性 2)社会福祉実践と医療と看護との連携              |         |             |
| 15(45 分)   | まとめと終了試験対策  |         |             |
| 16(45 分)   | 終了試験  |         |             |
| 講義方法   | 講義・GW(11, 12 は演習形式)   |         |             |
| 評価方法   | 筆記試験 100 点満点 評価基準参照   |         |             |
| テキスト   | 医学書院:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(3) 社会保障・社会福祉                    |         |             |
| 備考   | 既習関連科目:地域福祉、公衆衛生、地域と暮らし、地域で暮らす人々を支える仕組み、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護論実習 I |         |             |

| 科目区分  | 専門基礎分野  | 授業科目    | 関係法規     |
|---|---|---------|----------|
| 講師名   | 山根 知己(9) 木村 和也(2)<br>藤井 光輝(4)   | 実務経験の有無 | 有        |
| 単位数(時間)   | 1単位(15時間)   | 開講年次    | 3年次 第1学期 |
| <p>目的：1. 医療の実践に関連して必要な法令について学ぶ<br/>         目標：1. 法の基礎知識並びに保健医療関係法規を理解する<br/>         2. 看護師として役割達成に必要な法規について理解する</p> |   |         |          |
| 講義概要<br>メッセージ   |   |         |          |
| 回   | 講義内容  |         |          |
| 1   | 1. 法の概念<br>1) 法律の概念 2) 衛生法 3) 厚生労働行政の仕組み  |         |          |
| 2. 3  | 2. 看護法<br>1) 保健師助産師看護師法、保健師助産師看護師法施行令、保健師助産師看護師法施行規則<br>(1)目的 (2)定義 (3)保健師助産師看護師法の構造と附属法令 (4)免許 (5)試験<br>(6)学校・養成所 (7)業務 (8)研修 (9)義務 (10)医療過誤 (11)罰則 (12)沿革<br>2)看護師等の人材確保の促進に関する法律<br>(1)目的 (2)定義 (3)看護師等の人材確保の促進 (4)ナースセンターと離職届 |         |          |
| 4   | 3. 医事法<br>1) 医療法<br>2) 医療関係資格法<br>(1)医師法 (2)歯科医師法 (3)薬剤師法 (4)医療関係資格法<br>3) 医療を支える法<br>(1)医療・介護の提供体制に関する法 (2)移植医療に関する法<br>(3)地域振興における看護の役割に関する法 (4)人の死に関する法<br>(5)緊急時の看護・医療に関する法   |         |          |
| 5   | 4. 保健衛生法<br>1) 共通保健法<br>(1)地域保健法 (2)健康増進法<br>2) 分野別保健法<br>(1)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (2)母子保健法 (3)母子保護法<br>(4)学校保健安全法 (5)個別対策法<br>3) 感染症に関する法 4) 環境衛生法   |         |          |
| 6   | 5. 社会保険法<br>1) 健康保険法 2) 国民健康保険法 3) 高齢者の医療の確保に関する法律<br>4) 介護保険法 5) 国民年金法 6) 厚生年金保険法  |         |          |
| 7   | 6. 労働法と社会基盤整備<br>1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 労働者災害補償保険法 4) 雇用保険法<br>5) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<br>6) 適正な労働の確保に関する法   |         |          |
| 8<br>(45分)  | 終了試験  |         |          |
| 講義方法  | 講義  |         |          |
| 評価方法  | 筆記試験 100点満点 評価基準参照  |         |          |
| テキスト  | 医学書院：系統看護学講座 社会保障制度と生活者の健康 [4] 看護関係法令   |         |          |
| 備考  | 既習関連科目：薬理学(総論)、成人看護学概論、社会福祉、母性看護学概論   |         |          |